

Title	聖路加国際大学 : 市民中心ケアモデルによる健康支援と国内外の保健医療職との協働
Author(s)	大田, えりか
Citation	目で見るWHO. 2019, 70, p. 20-21
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86567
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

聖路加国際大学 ~市民中心ケアモデルによる健康支援と 国内外の保健医療職との協働~



聖路加国際大学看護学研究科教授・WHOプライマリーヘルスケア 看護開発協力センター部長・PCC開発/地域連携室部長

大田えりか

東京大学大学院、国立成育医療研究センター研究所などを経て現職。コクランジャパン 副代表として、WHOガイドライン作成や共同研究に携わる。

聖路加国際大学の沿革

聖路加国際大学は、1920年にキリス ト教宣教医ルドルフ・B・トイスラーが 創立した聖路加国際病院附属高等看護婦 学校を母体とします。キリスト教精神に 基づき、教育・学術・実践活動を通じて、 国内外の全ての人の健康と福祉に貢献す るという理念の基、看護教育、実践およ び研究の発展に尽力しています。1964 年には私立として国内で初めて看護学部 の 4 年制教育を開始し、1980 年には大 学院博士前期課程、1988年には国内初 の看護学研究科博士後期課程を設立しま した。1997年には看護学研究科博士前



写真 1. 聖路加国際大学 外観



写真 2. WHOCC 公開セミナー(Nursing Now キャンペーン)

期課程に専門看護師コース、2017年に は看護学研究科博士後期課程に Doctor of Nursing Practice コースを設置する など、大学院教育に重点を置く一方、 1997年に学士編入制度の導入、2017 年に公衆衛生大学院開設など社会貢献に も取り組んでいます。現在は留学生も増 加しており、看護実践者や指導的人材の 育成だけでなく、よりグローバルな大学 となっています (写真 1)。

WHOCC としてのこれまで の取り組み~市民中心のケ アモデルの開発~

本学は、1990年にプライマリーヘル スケア (PHC) *1 における看護の教育、 実践および研究を発展させる拠点として、 世界保健機関西太平洋地域事務局 (WPRO) のコラボレーティングセンタ ー (WHOCC) に任命されました。任命 時より、(1)少子高齢社会の看護モデルと ケアシステムの開発、(2)市民主導型の根 拠に基づくケア開発におけるリーダーシ ップの発揮、(3)本学の新しいコースとカ リキュラムの開発及び評価、(4)学会学術 活動を通した情報収集および発信、(5)看 護政策策定への学術的貢献におけるリー ダーシップの発揮、(6)海外からの研修生 の受け入れや、日本の看護に関する情報 の国外発信という6つの目的に沿って 活動しています。

2011年より、特に People-Centered-Care (PCC) モデルの開発に力を入れ てきました。PCC とは、市民中心のケ

アを指し、医療従事者とパートナーシッ プを取り、ヘルスリテラシーを向上させ、 主体的に自身の健康問題の改善に取り組 むことです。市民が利用できる施設とし て聖路加健康ナビスポット(るかなび) やナースクリニックなどを運営し、市民 と医療従事者が協働して健康問題や保健 医療福祉の動向などをグローバルにとら え、PCC を研究開発および実践する役 割を担っています。超高齢化社会の中で 限られた資源を活用し、人々の健康を増 進するための枠組みを開発し、世界の国 々と知見を共有しています。

2018 年の活動~ WPRO 諸国における市民中心ケア モデルの開発支援と協働~

WHOCC は毎年、活動成果を報告し ており、これまでの取り組みは WHOCC の年報に関するサイト(http:// research.luke.ac.jp/who/ annualreport.html) から閲覧できます。 2018年は3つの付託条項に沿って活動 を行いました。付託条項1は、WPRO とその加盟国における PHC の価値に基 づく PCC モデルの発展支援、付帯条項 2は、加盟国とのヘルスリテラシープロ グラムに関する日本の知見の共有、付帯 条項3は、WPRO の低資源国における 看護と助産学教育能力の構築支援です。

付帯条項1では、「ヘルスナビゲーシ ョンプロジェクト」、「ヘルスリテラシー プロジェクト」、および「PCC プロジェ クト」という3つのプロジェクトを行 いました。「ヘルスナビゲーション プロジェクト」は、市民が気軽に立 ち寄り、健康や身体に関する情報を 得る場所としてるかなびを提供する 活動で、のべ4607人の市民が利 用し、健康チェックや講義などを受 けました。「ヘルスリテラシープロ ジェクト」は、ヘルスリテラシーに 関する e- ラーニング教材の開発で す。この教材は、聖路加国際大学 WHOCCのサイト(http:// research.luke.ac.jp/who/ documents.html) から無料で受講 できます。「PCC プロジェクト」は、 市民と医療従事者とのパートナーシ ップを測定する尺度の開発、並びに 信頼性、妥当性の検討を行いました。 これにより、市民と医療従事者との パートナーシップを評価でき、各国 の PCC の発展支援に役立てられる と考えます。

付託事項2では、思春期の女性 に対する子宮頸癌健診教育、赤ちゃ んが産まれる家族の兄弟支援、アス ベストの曝露予防に関する教育を実 施し、各国と共有しました。

付託事項3では、ミャンマーの マンダレー大学とラオスの健康科学 大学、マホソット病院、保健省の関 係者を日本に招き、研究協力の体制 を確立しました。また、タンザニア で助産師と助産学生に対して、産科 ケアに関するセミナーを開催しまし た。このセミナーは、参加者自身が 課題を見出し、解決策を模索する機 会となり、2019年度も実施する予 定です。

2019年 そして今後の活動

2019年6月より本センターは、 Nursing Now キャンペーン*2 に賛 同し、参加団体の一員として取り組 んでいます (写真3)。WHOCC主 催の公開セミナーも年2回開催し

ており、6月には、Nursing Now キャンペーンの一環として、国連人 口基金共催、国連開発計画駐日代表 事務所後援のもと、Jeanette C. Takamura 氏(コロンビア大学社会 福祉大学院名誉学部長・教授)と進 藤奈邦子医師(WHO ジュネーブ本 部 Health Emergencies Programme シニアサイエンスアド バイザー)を招き、「女性が変える グローバルヘルスと日本―自分が変 わる、社会を変える」と題したセミ ナーを開催しました。日本の働く女 性を取り巻く課題などについて参加 者が自身の考え方や生き方を考える 機会となりました。

7月には、中国上海でWPRO主 催の第3回 Health Profession Education Reforms and the Practice of the Cooperation Projects Sharing from Jiading を 開催しました (写真4)。国際的に 高齢化が進む中、プライマリーヘル スケア促進に向けた保健医療専門職 の育成について、ラオス、ベトナム、 カンボジア、モンゴルとともに意見 交換しました。

2020 年度には WHOCC の活動

も30年目に入ります。これまで大 学院生や教員を WHO にインター ン等として派遣し、国内外のコラボ レーションセンターとも共同研究や セミナーを合同で実施しています。 今後も、WHO 本部や各センターと つながりを持ちながら、より WPRO加盟国と連携、協働し、看 護教育・実践・研究の発展に貢献し ていきます。

*1 現実的で科学的妥当性があり社 会的に許容可能な方法と技術に基づ き、地域において個人と家族が参加 を通して普遍的に利用でき、自己決 定の精神に基づいて発展の全段階に おいて地域と国が維持可能な費用で 提供できる、必要不可欠な保健医療 サービス(アルマ・アタ、WHO、 1978)

*2 英国の議員連盟から始まり、 WHO と国際看護師協会が賛同する 世界規模のキャンペーン。ナイチン ゲール生誕 200年の 2020年末ま で、看護職の可能性を最大限に発揮 し、健康課題に取り組み、人々の健 康の向上に貢献することを支援しま す。



